

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	272101015
法人名	有限会社サニーライフ
事業所名	グループホームサニーライフ
所在地 (電話番号)	〒038-2501 青森県西津軽郡深浦町柳田字桜田34-5 (電話) 0173-76-3666

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年3月22日	評価確定日	平成20年5月16日

【情報提供票より】(平成20年2月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年3月17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算 8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(2月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	73 歳	最高	87 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	鯉ヶ沢町立中央病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>西海岸沿いで、窓からは海が眺望でき、反対側は山で四季折々季節を感じられる風光明媚な場所に立地している。裏には小さな畑があり野菜を収穫したり、明るく生活しやすい環境が提供されている。基本理念である「社会の先輩」というホームの理念が職員に理解、浸透されていて、利用者への言葉掛けも丁寧で、利用者は家庭的な雰囲気の中で生活されている。管理者、職員など地域密着の必要性が理解され、地域住民との交流も積極的にされている。</p>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との交流は積極的に行われているが、理念までの検討はまだ実施されていない。今後、地域密着型としての理念を運営者、職員が話し合いをもたれるよう、今後の取り組みに期待される。介護経過記録を改善され、介護計画書にはも実施期間も明記され見直しをしている。金銭出納帳については、面会が少ない家族に対しても報告、連絡を取って信頼関係を図るよう努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が中心となり、職員と良く話しあい自己評価を検討、実践されている。前回の外部評価での改善点については、改善に向けて、詳細な計画を立てながら実施しており、前向きな姿勢が感じられた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月1回定期的に開催し、結果は職員に周知出来る様にし、サービスの向上に活用している。又町内で行われるケア会議やサービス担当者会議に参加し質の向上に取り組んでおり、必要時には担当者職員に電話をしたり、訪問したりしながら積極的に連携を図っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>玄関には意見書箱を設置し、又情報の提供としてホーム便りの他に、面会時や家族へ電話連絡をした際に意見や希望をだして頂けるように働きかけ、意見を吸い上げられる方法を多岐にわたり提供している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議や、週に1回程度、地域の生き甲斐教室などにも参加され、体操、編み物など行い地域との交流を深めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は基本理念を確認し意識を高めているが、地域密着型サービスの意義を職員全員で理解しながらの理念づくりはまだされていない。		これまでの理念を見直し、地域密着型サービスとして地域生活の継続、強化されることを検討することが望まれます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内で掲げられている理念を職員に周知し、日々申し送りや、ミーティング等で理念に触れながら実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	毎週、地域交流の一環として生きがい活動に積極的に参加したり、地域内での運動会、保育園と交流したりしている。又地域の方々の訪問もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価をサービスの振り返りの機会と考え、職員の意識を高め、改善が必要な所は改善計画を作成し積極的に取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回定期的に開催し、記録をきちんと整理している。会議の結果は職員に閲覧しサービスの向上に活用している。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>月1回各事業者、市町村担当者が参加するケア会議があり、共に資質向上にむけ取り組んでいる。わからない事があれば町村の担当者に訪ねたり、電話したりして課題解決に努めている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会などに参加し、研修後は内部の報告会や勉強会などを行っている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法に関しての研修会に参加し、理解浸透を図り、日常周知徹底できるよう、お互いが意識し支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時に、時間を充分にとって丁寧に説明し、同意を得ている。又その際事業所のケアに関する考え方、取り組み等御家族とよく話し合い対応されている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時、家族に現在の健康状態などを説明したり、毎月ホーム便りと一緒に個別に近況報告をしたりしている。家族が遠方で面会が困難な方には定期的に電話連絡をしている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や家族が面会に来られたとき等、何でも言うて頂くよう話し、家族から意向など確認出来るよう配慮し、運営に反映している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動、離職に関しては、時期や引き継ぎのタイミングを図ったり、利用者との会話を密にしたりして利用者が動揺しないよう、精神的負担にならないよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には計画を立て、職員のスキルに応じて積極的に参加させ、職員の資質向上に努めている。研修後は報告会や勉強会を開催し、日々の介護の中にかされ、実践されている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と密に連絡を取り合いながら、お互いの事業所の訪問や意見交換等を計画的に実践し、サービスの質の向上に努めている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	担当者が自宅を訪問したり、本人や家族に事業所を見学してもらったして、安心して利用して頂けるようコミュニケーションを取りながら利用に至っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にあるように「社会の先輩」であることを職員が良く理解し、生活の場面において利用者から教えて頂く場面を多くもっている。訪問時も、その日の献立の味付けについて、意見を頂いたり教えて頂きながら、尊敬の念を持って接遇していた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の会話の中で行動、言動など観察し、本人の意向を確認しながら処遇にあたっている。困難な場合には、家族と話し合いをしながら情報を得るようにしている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を利用し、生活歴は本人や家族から聞きだし、詳細に記入、アセスメントに反映されている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状況の変化に応じて計画書を見直し、又サービスに変更が生じたときに家族や職員と話しあいながら計画の見直しをしている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>定期受診以外の緊急時に通院するための体制を整えたり、普段から主治医と十分に連絡をとって入院を回避したりするなど本人や家族の状況に応じ、柔軟に対応されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を利用している。定期受診の他に、利用者の状態に応じて、訪問看護を利用し、健康面で心配があるときは、その都度相談できる関係を維持している。又受診時、説明など必要な時は同行したり、同行できない場合は受診後、家族に受診報告をしている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時家族に説明し、事業所での方針を含め十分に話しあいされている。現在は重度化や終末期の対応は対象としてはいないが、安心して生活して頂くために健康管理や急変時対応できるようにしており、又他施設での連携や情報交換を密にしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物は外部の目にふれないよう決まった場所に保管し、利用者に対してはプライバシーを損なわないような言葉かけや声のトーンに留意している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を確認しながら援助し、食後は個々の好きな場所でくつろいだり、テレビを鑑賞したり、利用者同士や介護者と会話が弾んだりして、和やかな雰囲気であった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と献立について話しあい、旬の食材を取り入れたり、地域性のある食事であったり等、食事が楽しみになるよう支援されている。又一緒に野菜の皮むき等の食事の準備、食後はおぼんを拭いたり等、職員がさりげなく援助しながら、楽しく食事がいただける様努めていた。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は決められているが、希望があればいつでも入浴出来る体制がある。一人一人の入浴時間、温度なども調整し心地よい入浴を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴を十分に把握し、編み物等の趣味を活かしたり、畑作りをしたり、又漁業の職歴を持つ方には、海の良く見える場所に椅子を設置し、その日の天気を聞きだしたりするなど、個々に生きがいもてるよう生活支援されている。		
28	58	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	風光明媚な場所に立地されており、心身の活性につながるよう、季節感を感じて頂きながら日常的に散歩されている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する勉強会、研修会に参加され、身体拘束について職員が正しく認識し日々支援されている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない介護について職員が話し合い、理解、実践されている。玄関にセンサーを取り付けることで、面会者などの時迅速に対応され、原則としてはかけない方法での支援は職員にも周知されている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を実施し緊急時に備えている。訓練実施時は近隣の協力も得ている。利用者一人ひとりの部屋には災害時の避難袋が備えつけられ定期的に確認を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量など毎日記録している。職員が季節感のあるものを取り入れたりしながら献立を作成しているが、献立やカロリーを栄養士に確認するまでには至っていない。		管理者はカロリー計算をしながら献立を作成しているが、協力病院に栄養士がいるとの事なので、献立表を確認してもらう事で、よりよい食事支援につながると思われるので相談、検討していただくことが望まれます。
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成したり、研修会に参加したり、職員でも勉強会を行ったりして理解を深め、日々の生活のなかで予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間にはゆったりくつろげるソファが設置され、又廊下の一角には一人用椅子などがあり、外が眺められる様配慮されている。テレビの音量、職員の声のトーンなどに気を配り支援が行われている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が季節に合わせて作成された作品が食堂ホールに展示されたり、居室の扉には職員手作りの装飾が、利用者が居室を間違えないよう飾られたりしている。又居室も、馴染みのある家具の持ち込みや、大切な小物等、個々が安心して生活して頂けるように配慮されている。</p>		

 は、重点項目。